

P (構想)

授業づくり規準 (水産科)

力要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (水産科の内容に関わる授業づくりの力)
学習者の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> 学習者の発達段階を踏まえた上で、生活体験や学習経験は学習者によって異なることを意識している。 学習の方法や理解の仕方は学習者によって異なることを意識している。 学習者の性格や学習に対する意欲等を把握している。 学習集団の特質や、個と集団の関わりを把握している。 個々の学習者に対して、指導上配慮すべき事項を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者の水産科に関する生活体験等を把握している。 水産科及び中学校技術・家庭科を含め、学習者の既習事項の習得状況等を把握している。 水産科に関する学習者の興味・関心、意欲及び進路目標等を把握している。 薬品や自然物等を用いる場合、学習者のアレルギーの体質等を把握している。
教科内容に関する知識・技能		<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領、教科書記述の内容分析等を通して、水産科の各分野における内容の系統性や指導内容を把握している。 教材や題材の本質を理解している。 水産科に関わる知識・技能や、探究するための態度などを持っている。 水産科に関わる新しい技術や情報の収集、理解に努めている。 学校周辺の地域環境等（自然、気候、文化、人材、施設等）を把握している。
目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 学習は、学習者自身の主体的・探究的な活動によって成立することを理解している。 学校の教育目標や課題を踏まえ、育てたい力を捉えている。 学習を通して学習者の自信を深め、自己肯定感を高めるという意識を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 水産科における育てたい力（身に付けたい力）を的確に捉え、目標設定している。 学習指導要領の目標及び単元の指導目標を明確に把握し、観点別評価規準の評価観点に照らして捉えている。 水産科における単元の指導目標に各授業の指導目標を明確に関連付けている。 学校の教育目標や課題を水産科と関連付けて捉え、目標に反映させようとしている。
単元計画 (授業計画)	<p>(学習指導案の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導案の重要性や、目標、内容、方法等の指導案の形式の意図を理解し、指導計画を表現している。 <p>(評価計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な到達目標とそのための適切な評価方法を選択・計画している。 自己評価、他者評価等、学習者が学習を改善するための手だてを考えている。 	<p>(単元計画の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の目標及び水産科の指導目標を達成でき、学習者が知識を体系的に獲得できる単元計画を作成している。 増養殖、飼育等においては、学校における実態に合わせて、水産科の指導目標及び実験・実習における目標を達成でき、学習者が知識・技術を体系的に獲得できる計画を作成している。 学習者の実態に合わせて、指導内容に重みを付けたり、配列を工夫したりするなど、単元計画を作成している。 実験・実習等における安全管理等を踏まえた上で、単元計画や学習指導案を作成している。 <p>(評価計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品や報告書等においては完成品だけでなく過程を評価するなど評価の方法や時期について、指導目標に照らした適切な評価計画を作成している。

授業の構成	<p>(学習方法・形態の選択・組織)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標を達成するために、学習者の実態を踏まえた適切な学習方法や学習形態を考えている。 新たな知識・技能・学び方等を発見したり、習得したりする喜びを実感できる授業を行うために、学習方法を改良・開発している。 主体的な探究活動や問題解決を考慮して、授業を組み立てている。 学習者が学習内容や学習の過程を振り返るための手だてを考えている。 	<p>(学習内容の構成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水産科の体系における位置付けや単元（題材）の指導内容を理解した上で、学習内容を構成している。 「言語活動の充実」を意識して、学習内容を構成している。 <p>(教材・題材の選択・構成・開発)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の目標及び単元の指導目標を達成するのに適し、学習者の実態に合わせた教材・題材を選択し、構成している。 指導教材を、自分自身で改良・開発している。 ICTの活用など効果的な教具を利用している。 <p>(板書等の計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに即し、授業展開を推測した板書を計画している。 本時のねらいを達成するための有効な働き掛け（実物提示等）や個への支援を計画している。
-------	---	--

D（展開）

力要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (水産科の内容に関わる授業づくりの力)
学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境が、学習者の安全や認知にどのような効果を与えるかを意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元や実験・実習等の特性を理解し、事故防止についての学習環境づくりをしている。 より効果的に学習するために施設や機器等の管理及び準備をしている。 学習者個々の特性等に配慮するとともに、行動を推測した使用機器等の事前準備をしている。
学習への構えや学び方の指導	<ul style="list-style-type: none"> 学習者がどのような姿勢で学習に臨めばよいかを明確に示し、学習者に意識させている。 学習過程や自分の考えをまとめていけるようなノートづくりを指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目や単元の特性を理解させ、学び方や取組方を示し、学習者に意識させている。 水産科の学習に関わる考え方やまとめ方、資料活用、必要な技術等の定着を図っている。 実験・実習等における事故防止等意識した安全指導をしている。 将来のスペシャリストの育成という観点から専門分野の基礎的・基本的な知識、技術及び技能を身に付けさせるための教育とともに、社会に生き、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観等を醸成し、豊かな人間性の涵養等にも配慮した指導を行っている。
個や集団への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 個への対応に具体的な配慮をしている。 集団における学習の大切さや、個の発言の集団への影響を意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者の学習状況や習熟度、作業進度、活動場所等に応じて個・集団へ対応している。 学習活動の成果を発表し合うなどの活動を適切に位置付け、それぞれの学習者が学んだ内容を共有化し、認め合うことができるよう配慮している。
音声・表情・所作等	<ul style="list-style-type: none"> 話し方や表情・所作と学習者の反応との関連を意識している。 場面や目的、環境等に応じて、声の大きさ、話の速さ・緩急・強弱等の話し方や表情を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験・実習においては実施場所等の環境を考慮して、話し方、声の大きさ、距離などを工夫している。 学習者に対する学習効果を考え、適切な時機、話し方（大きさ・速さ・緩急・強弱など）、表情などを効果的に使い分けている。 実習船上等の特殊な状況において、より実践的で実効力のある話し方等を意識している。

指導技術	<p>(言葉遣い)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者の発達段階に応じた適切な言葉遣いをしている。 <p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい言葉で、端的に説明している。 <p>(指示)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的を意識させながら、どんな行動をすべきかを明確に示している。 <p>(発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者が何を問われているか理解できる発問をしている。 <p>(板書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 見やすさを考慮し、視覚的に構造化するなど、工夫しながら丁寧に板書している。 学習者の様子を観察しながら、板書している。 <p>(演技・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習場面や教材の特性に応じて、適切であると考えた演技をしている。 待つ時間や「授業のやまば」等を意識して授業を展開している。 	<p>(言語)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水産科の各科目における専門用語・記号・関係法規等を含め、教科指導に適切な言語を使用している。 <p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者のつまづきやすい点を推測し、理解や納得が得られるように説明している。 実物提示など学習者が具体的にイメージしやすいように工夫している。 実験・実習等において、要点をおさえて分かりやすく簡潔に説明している。 <p>(指示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ねらいや学習内容を踏まえ、必要とする場面で指示をしている。 実験・実習等の手順や注意点を押さえ、学習者の必要に応じて分かりやすく簡潔で的確に指示している。 <p>(発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ねらいを達成するために、学習者の思考を促したり、焦点化したりする発問をしている。 水産科における専門的な考え方の育成に考慮した発問をしている。 <p>(板書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水産科の特質に応じた指導技術を身に付け、教科のねらいや学習内容を踏まえ、学習者の思考活動との関係をおさえて板書している。 板書とICTの併用など、学習者の理解を促すような工夫をしている。 <p>(演示)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験・実習等の指導に必要な技術を身に付け、学習者に示している。 <p>(教材・教具の活用、資料提示)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者にとって、どんな教材・教具・資料がよいかを考え、活用している。(ICTを含む) 専門機器や器具等を効果的に活用している。 <p>(安全への配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験・実習内容、学習者の状況などから、施設、器具、薬品等における安全配慮とともに安全指導の徹底が図られている。
学習活動における即時的対応	<ul style="list-style-type: none"> 学習者の発言や行動を適切に受け止め、達成感、満足感を感じさせている。 学習内容に適した評価法を用意し、実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者の発言や行動の意図を読み取り、教科の内容や学習方法に照らして理由を付けて認めた上で、適切な支援をしている。 学習者の様子や授業目標との関係を捉え、指導過程を修正している。

C・A (評価・改善)

力 要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (水産科の内容に関わる授業づくりの力)
授業の振り返りと分析	<ul style="list-style-type: none"> 「指導と評価の一体化」を意識している。 授業によって、学習者がいかに変容したかについて、絶えず関心を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導目標に照らして授業や単元を振り返り、ねらい達成の可否の原因を明らかにしようとしている。 学習者の発言や報告書、実験・実習における技術習得、作品等の成果物などから教科指導について振り返り、具体的な改善点を明らかにしようとしている。 指導と評価の一体化と観点別評価を意識した評価をしている。
改善に向けた手だて	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導の方法の効果について、意識的・具体的に捉え、指導方法の改善に結び付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導について振り返り、改善点を具体化し、授業改善に生かしている。

